

答え合わせ・解説

問1	答え 4 志賀島	後漢の光武帝から授けられたとされる「漢委奴国王」の金印は、江戸時代、福岡県の志賀島で農作業中に偶然発見されたと伝えられています。この発見により、古事記などの文献に頼るだけでなく、考古学的な資料によって古代の外交関係が証明されることとなりました。
問2	答え 2 魏志倭人伝	魏の歴史をまとめた『魏志』のうち、東夷伝という章に倭人に関する記述があり、一般に『魏志倭人伝』と呼ばれます。当時の日本の社会情勢、邪馬台国の卑弥呼の様子、生活習慣などが記録されています。
問3	答え 3 後漢書	『後漢書』は、後漢時代の出来事をまとめた中国の歴史書です。この中にある「東夷伝」という章には、当時の日本（倭）の様子が記されており、57年に奴国の王の使いが後漢へ向かい、光武帝から金印を授けられたという記述が含まれています。
問4	答え 3 銅鐸	銅鐸は青銅製の釣鐘状の道具で、当初は小型でしたが、次第に大型化しました。表面には稲作の様子や動物、自然などの絵が描かれることもあり、当時の人々の信仰心や芸術性を伝えています。
問5	答え 3 小国	当時の日本は「百余りの小国」に分かれていたと『後漢書』などに記されています。これらの小国は、豊かな水田地帯を支配する有力者（首長）を中心に組織され、ときには他の集落や小国と水や土地をめぐる激しく争いました。
問6	答え 4 吉野ヶ里遺跡	吉野ヶ里遺跡は、周囲に深い堀（環濠）を巡らせ、外敵の侵入を防ぐ構造を持つ大規模な集落跡です。敷地内には高床倉庫や物見やぐら、王の住居と見られる建物などが再現されています。
問7	答え 3 祭り	銅鐸は、このような祭りの場で、神聖な音を出したり、掲げられたりすることで、人々を統率し豊作を祈るために使われました。祭りは単なるレクリエーションではなく、集落の人々を結びつける政治・宗教的なイベントでした。
問8	答え 4 朝貢	朝貢は、中国の皇帝に対して周辺諸国の支配者が使者を派遣し、贈り物（貢ぎ物）を差し出す外交儀礼です。皇帝はその返礼として、称号や印などを与え、支配者としての正当性を認めました。これにより、日本側の首長は国内の勢力争いで優位に立つことができました。
問9	答え 4 鉄器	鉄は青銅よりも硬く丈夫であるため、刃先として農具（鋤・鍬）や武器（剣・矛・鏃）などに加工されました。鉄製農具の普及により、土地の開墾や灌漑施設の整備が効率的に行われるようになり、収穫量が大幅に増大しました。
問10	答え 2 卑弥呼	卑弥呼は「鬼道」と呼ばれる呪術を用いて人々を統治した女王です。3世紀、魏に使者を派遣して高い政治的地位を認められ、有力な指導者として倭をまとめました。これは中国の歴史書『魏志倭人伝』に詳しく記されています。
問11	答え 4 吉野ヶ里遺跡	吉野ヶ里遺跡は、周囲に二重の環濠と柵をめぐらせた巨大な集落跡です。内部には多数の高床倉庫や竪穴住居、祭祀場などが復元されており、弥生時代の社会構造や生活の様子を知る上で非常に重要な遺跡です。
問12	答え 1 銅矛	銅矛は、九州地方で出土することが多い青銅製の武器型祭器です。これらは実際に戦いで使う武器というよりは、葬儀や祭りの場で神を祀ったり、亡くなった首長の権力を誇示したりするための道具として副葬されました。
問13	答え 1 ローマ帝国	ローマ帝国は、地中海沿岸の全域を支配下に置き、高度な法整備や道路網、水道技術などを有していました。同時期のアジアの中国やインドとも間接的な交易関係があり、広い範囲で交流が行われていました。
問14	答え 2 光武帝	光武帝は、57年に九州の奴国から訪れた使者に対し、朝貢の返礼として金印を授けました。これは当時の中国が、周辺の地域の小国を支配下（冊封体制）に置こうとした外交政策の一環でした。
問15	答え 4 弥生町	1884年、東京都文京区の弥生町で特徴的な土器が発見されました。縄文土器とは異なる、薄手で赤褐色をしたこの土器は、発見地の名前をとって「弥生土器」と名付けられました。これが弥生時代という名称の直接の由来となっています。

問1 九州地方で主に副葬品として使われていた、銅剣などとともに見つかる青銅の武器を何という？

1. 銅矛 2. 銅鐸 3. 銅鏡 4. 銅剣

問2 弥生時代、奴国の使者が金印を授かった、当時の中国の王朝を何という？

1. 隋 2. 魏 3. 前漢 4. 後漢

問3 弥生時代に大陸から伝わり、実用品ではなく主に祭祀の道具として使われた青銅器のうち、釣鐘のような形をしたものを何という？

1. 銅矛 2. 銅鐸 3. 銅剣 4. 鏡

問4 福岡県の志賀島で発見され、1世紀に中国の皇帝から日本の王が贈られたことを示す重要な遺物を何という？

1. 銅矛 2. 銅鏡 3. 金印 4. 銅鐸

問5 佐賀県にあり、周囲に濠（ほり）を巡らせた弥生時代の集落跡として知られる代表的な遺跡を何という？

1. 三内丸山遺跡 2. 大森貝塚 3. 登呂遺跡 4. 吉野ヶ里遺跡

問6 3世紀頃、邪馬台国を治め、中国の魏に使者を送ったとされる女王は誰？

1. 推古天皇 2. 卑弥呼 3. 神武天皇 4. 聖徳太子

問7 金印が作られた紀元1世紀頃、地中海を中心に繁栄していた当時の巨大な帝国を何という？

1. ローマ帝国 2. クシャーナ朝 3. 大秦国 4. パルティア

問8 弥生時代に作られた銅剣や銅矛などの青銅器は、主に何という儀式の道具として発展した？

1. 祭祀 2. 狩猟 3. 交易 4. 農耕

問9 邪馬台国の卑弥呼が魏の皇帝から贈り物を受けた様子など、当時の日本の様子が詳しく記されている中国の歴史書を何という？

1. 日本書紀 2. 魏志倭人伝 3. 風土記 4. 古事記

問10 弥生時代の日本が、中国の王朝へ進んだ文化や権威を求めて使者を送り、贈り物や献上品を送る外交形式を何という？

1. 遣唐使 2. 大化の改新 3. 冊封 4. 朝貢

問11 弥生時代に大陸から伝わった金属器のうち、農具や武器として実用的に使われたものを何という？

1. 土器 2. 石器 3. 青銅器 4. 鉄器

問12 古代中国の記録などを通じて、当時の日本（倭）の状況を知ることができる資料のうち、出来事や制度を記録した書物を何という？

1. 法典 2. 地理書 3. 歴史書 4. 随筆

問13 佐賀県に位置し、環濠集落の中でも大規模で、高床倉庫や物見やぐらが復元されていることで知られる遺跡は何という？

1. 菜畑遺跡 2. 唐古・鍵遺跡 3. 登呂遺跡 4. 吉野ヶ里遺跡

問14 弥生時代に大陸から伝わり、武器としてではなく、祭祀や儀式の際に用いられた青銅製の釣り鐘型の道具を何という？

1. 銅剣 2. 銅鐸 3. 鏡 4. 銅矛

問15 江戸時代に金印が発見されたと伝えられている、現在の福岡県にある島は何という？

1. 種子島 2. 壱岐 3. 対馬 4. 志賀島

答え合わせ・解説

問1	答え 1 銅矛	銅矛は、九州地方で出土することが多い青銅製の武器型祭器です。これらは実際に戦いで使う武器というよりは、葬儀や祭礼の場で神を祀ったり、亡くなった首長の権力を誇示したりするための道具として副葬されました。
問2	答え 4 後漢	57年、九州の奴国の使者が中国の王朝である後漢の皇帝を訪れ、朝貢を行いました。当時の皇帝である光武帝は、その使いに対して「漢委奴国王」と刻まれた金印を贈りました。
問3	答え 2 銅鐸	銅鐸は主に近畿地方を中心に多く出土しており、祭祀の道具として用いられました。当初は小型でしたが、時代が進むにつれて大型化し、表面には線刻で絵が描かれるようになるなど、集落の祭りに欠かせないシンボルとなりました。
問4	答え 3 金印	1784年、福岡県の志賀島で農夫によって発見されました。印面には「漢委奴国王（かんのわのなのこくおう）」と刻まれており、中国の後漢書にある記述と一致します。これは、当時の日本が既に中国の皇帝から「王」として認められる外交交渉を行っていたことを裏付けています。
問5	答え 4 吉野ヶ里遺跡	吉野ヶ里遺跡は、周囲に二重の環濠と柵をめぐらせた巨大な集落跡です。内部には多数の高床倉庫や竪穴住居、祭祀場などが復元されており、弥生時代の社会構造や生活の様子を知る上で非常に重要な遺跡です。
問6	答え 2 卑弥呼	卑弥呼は「鬼道」と呼ばれる呪術を用いて人々を統治した女王です。3世紀、魏に使者を派遣して高い政治的地位を認められ、有力な指導者として倭をまとめました。これは中国の歴史書『魏志倭人伝』に詳しく記されています。
問7	答え 1 ローマ帝国	ローマ帝国は、地中海沿岸の全域を支配下に置き、高度な法整備や道路網、水道技術などを有していました。同時期のアジアの中国やインドとも間接的な交易関係があり、広い範囲で交流が行われていました。
問8	答え 1 祭祀	青銅器である銅剣や銅矛は、鋭い刃を持ちながらも実用には適さない繊細なものも多く、主に祭祀の場で神聖な道具として使われました。これらを所有したり儀式を主導したりすることが、指導者の権威を高めることにつながりました。
問9	答え 2 魏志倭人伝	魏の歴史をまとめた『魏志』のうち、東夷伝という章に倭人に関する記述があり、一般に『魏志倭人伝』と呼ばれます。当時の日本の社会情勢、邪馬台国の卑弥呼の様子、生活習慣などが記録されています。
問10	答え 4 朝貢	朝貢は、中国の皇帝に対して周辺諸国の支配者が使者を派遣し、贈り物（貢ぎ物）を差し出す外交儀礼です。皇帝はその返礼として、称号や印などを与え、支配者としての正当性を認めました。これにより、日本側の首長は国内の勢力争いで優位に立つことができました。
問11	答え 4 鉄器	鉄は青銅よりも硬く丈夫であるため、刃先として農具（鋤・鍬）や武器（剣・矛・鏃）などに加工されました。鉄製農具の普及により、土地の開墾や灌漑施設の整備が効率的に行われるようになり、収穫量が大幅に増大しました。
問12	答え 3 歴史書	『後漢書』や『魏志倭人伝（三国志）』などが代表的な歴史書です。これらの書物には、日本（倭）の地理や、百余りの小国が乱立していた様子、金印の授与、卑弥呼が統治した邪馬台国の様子などが詳細に記述されています。
問13	答え 4 吉野ヶ里遺跡	吉野ヶ里遺跡は、周囲に深い堀（環濠）を巡らせ、外敵の侵入を防ぐ構造を持つ大規模な集落跡です。敷地内には高床倉庫や物見やぐら、王の住居と見られる建物などが再現されています。
問14	答え 2 銅鐸	銅鐸は、主に近畿地方を中心に分布しており、弥生時代の村の共同体で行われる祭りや儀式に使われたと考えられています。初めは小型で実際に鳴らしていましたが、時代が進むにつれて大型化し、文様が描かれるようになり、神聖な祭器として祭りの場に立てられたり、埋められたりしました。
問15	答え 4 志賀島	福岡県の志賀島で、農作業の最中に石の間から金印が発見されたと伝えられています。金印には「漢委奴国王」という文字が刻まれており、これがかつて中国の皇帝から授けられたものと結びつけられました。

問1 弥生時代に大陸から伝わり、実用品ではなく主に祭祀の道具として使われた青銅器のうち、釣鐘のような形をしたものを何という？

1. 銅矛 2. 銅鐸 3. 銅剣 4. 鏡

問2 銅剣や銅矛が多く出土しており、銅鐸の主な出土地帯とは異なる特徴を持つ地域はどこ？

1. 九州地方 2. 近畿地方 3. 東北地方 4. 中国地方

問3 1世紀に日本の奴国の王から使者が送られた際、返礼として金印を授けた後漢の皇帝は誰？

1. 武帝 2. 始皇帝 3. 光武帝 4. 玄宗

問4 弥生時代において、祭礼や儀式を行うために用いられた道具のうち、銅鐸や銅鏡などを総称して何という？

1. 土器 2. 石器 3. 鉄器 4. 青銅器

問5 金印が作られた紀元1世紀頃、地中海を中心に繁栄していた当時の巨大な帝国を何という？

1. ローマ帝国 2. クシャーナ朝 3. 大秦国 4. パルティア

問6 弥生時代に大陸から伝わった金属器のうち、農具や武器として実用的に使われたものを何という？

1. 土器 2. 石器 3. 青銅器 4. 鉄器

問7 弥生時代に大陸から伝わり、銅剣や銅矛などの作成に用いられた技術のことを何という？

1. 木器 2. 石器 3. 土器 4. 金属器

問8 弥生時代に北部九州を中心に多く出土している、中国から輸入された鏡を何という？

1. 三角縁神獣鏡 2. 画文帯神獣鏡 3. 方格規矩鏡 4. 漢鏡

問9 福岡県の志賀島で発見された金印を授けた、弥生時代の中国の王朝を何という？

1. 前漢 2. 西晋 3. 魏 4. 後漢

問10 弥生時代に作られた銅剣や銅矛などの青銅器は、主に何という儀式の道具として発展した？

1. 祭祀 2. 狩猟 3. 交易 4. 農耕

問11 銅鐸が主な役割として使われた、豊作を祈るなどの行事を何という？

1. 狩り 2. 戦い 3. 祭り 4. 交易

問12 弥生土器の名称の由来となった、最初に見つかった場所は現在の何という地名？

1. 飛鳥 2. 本郷 3. 向ヶ岡 4. 弥生町

問13 邪馬台国の卑弥呼が魏の皇帝から贈り物を受けた様子など、当時の日本の様子が詳しく記されている中国の歴史書を何という？

1. 日本書紀 2. 魏志倭人伝 3. 風土記 4. 古事記

問14 「漢委奴国王」と刻まれた金印が発見された、福岡県にある場所はどこ？

1. 対馬 2. 壱岐 3. 種子島 4. 志賀島

問15 弥生時代に祭礼の道具として用いられ、指導者の地位の高さを示す象徴となった釣鐘状の青銅器を何という？

1. 銅矛 2. 鏡 3. 銅鐸 4. 銅剣

答え合わせ・解説

問1	答え 2 銅鐸	銅鐸は主に近畿地方を中心に多く出土しており、祭祀の道具として用いられました。当初は小型でしたが、時代が進むにつれて大型化し、表面には線刻で絵が描かれるようになるなど、集落の祭りに欠かせないシンボルとなりました。
問2	答え 2 近畿地方	青銅器の中でも、銅剣・銅矛の文化圏と、銅鐸の文化圏は微妙に異なり、特に関西地方を中心に多くの出土が見られます。これは、当時のクニの間で文化的な交流や、あるいは対抗意識が存在していたことを示唆しています。
問3	答え 3 光武帝	当時の日本の「奴国」の王が、後漢の都に使者を派遣しました。それに対して、皇帝である光武帝は、親交のしるしとして「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けました。これは当時の日本が中国の王朝から「倭の国の一つ」として公的に認められた歴史的な出来事です。
問4	答え 4 青銅器	青銅器は主に銅鐸や銅鏡、銅剣などに鑄造され、それらが高い装飾性を持っていたことから、主に集落の祭礼や儀式、または権力者の威信を示すための道具として使われました。実用的な強度を持つ鉄器とは異なり、精神的な価値や共同体の結束を高める象徴としての役割が強かったといえます。
問5	答え 1 ローマ帝国	ローマ帝国は、地中海沿岸の全域を支配下に置き、高度な法整備や道路網、水道技術などを有していました。同時期のアジアの中国やインドとも間接的な交易関係があり、広い範囲で交流が行われていました。
問6	答え 4 鉄器	鉄は青銅よりも硬く丈夫であるため、刃先として農具（鋤・鍬）や武器（剣・矛・鏃）などに加工されました。鉄製農具の普及により、土地の開墾や灌漑施設の整備が効率的に行われるようになり、収穫量が大幅に増大しました。
問7	答え 4 金属器	金属器には主に銅製品（青銅器）と鉄製品がありました。青銅器は、銅剣や銅矛、銅鐸のように主に祭りや儀式のための道具として用いられ、集団の結束を高める役割を果たしました。一方で鉄製品は、農具や武器として実用的な側面が強く、当時の生産性向上や戦闘の激化に寄与しました。
問8	答え 4 漢鏡	漢鏡は、中国の漢王朝で鑄造された銅鏡で、高い鑄造技術による精巧な文様が特徴です。これらは日本の首長たちにとって、自身の権威を内外に示すための貴重な贈り物や財宝として大変珍重されました。
問9	答え 4 後漢	志賀島で発見された「漢委奴国王」と刻まれた金印は、1世紀頃、後漢の光武帝が日本の使者に授けたものと考えられています。これは日本が中国の王朝から外交上の承認を得ていたことを示す重要な証拠です。
問10	答え 1 祭祀	青銅器である銅剣や銅矛は、鋭い刃を持ちながらも実用には適さない繊細なものも多く、主に祭祀の場で神聖な道具として使われました。これらを所有したり儀式を主導したりすることが、指導者の権威を高めることにつながりました。
問11	答え 3 祭り	銅鐸は、このような祭りの場で、神聖な音を出したり、掲げられたりすることで、人々を統率し豊作を祈るために使われました。祭りは単なるレクリエーションではなく、集落の人々を結びつける政治・宗教的なイベントでした。
問12	答え 4 弥生町	1884年、東京都文京区の弥生町で特徴的な土器が発見されました。縄文土器とは異なる、薄手で赤褐色をしたこの土器は、発見地の名前をとって「弥生土器」と名付けられました。これが弥生時代という名称の直接の由来となっています。
問13	答え 2 魏志倭人伝	魏の歴史をまとめた『魏志』のうち、東夷伝という章に倭人に関する記述があり、一般に『魏志倭人伝』と呼ばれます。当時の日本の社会情勢、邪馬台国の卑弥呼の様子、生活習慣などが記録されています。
問14	答え 4 志賀島	後漢の光武帝から授けられたとされる「漢委奴国王」の金印は、江戸時代、福岡県の志賀島で農作業中に偶然発見されたと伝えられています。この発見により、古事記などの文献に頼るだけでなく、考古学的な資料によって古代の外交関係が証明されることとなりました。
問15	答え 3 銅鐸	銅鐸は青銅製の釣鐘状の道具で、当初は小型でしたが、次第に大型化しました。表面には稲作の様子や動物、自然などの絵が描かれることもあり、当時の人々の信仰心や芸術性を伝えています。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 銅鐸	銅鐸は、主に近畿地方を中心に分布しており、弥生時代の村の共同体で行われる祭りや儀式に使われたと考えられています。初めは小型で実際に鳴らしていましたが、時代が進むにつれて大型化し、文様が描かれるようになり、神聖な祭器として祭りの場に立てられたり、埋められたりしました。
問2	答え 2 光武帝	光武帝は、57年に九州の奴国から訪れた使者に対し、朝貢の返礼として金印を授けました。これは当時の中国が、周辺の地域の小国を支配下（冊封体制）に置こうとした外交政策の一環でした。
問3	答え 3 高温	縄文土器と異なり、弥生土器は密閉された窯などを用いて高温で焼く技術によって製造されました。高温で焼くことで強度が上がり、煮炊きに適した薄い土器を大量に作ることができました。これにより食生活や保存方法が大きく向上しました。
問4	答え 4 後漢	57年、九州の奴国の使者が中国の王朝である後漢の皇帝を訪れ、朝貢を行いました。当時の皇帝である光武帝は、その使いに対して「漢委奴国王」と刻まれた金印を贈りました。
問5	答え 2 近畿地方	青銅器の中でも、銅剣・銅矛の文化圏と、銅鐸の文化圏は微妙に異なり、特に関西地方を中心に多くの出土が見られます。これは、当時のクニの間で文化的な交流や、あるいは対抗意識が存在していたことを示唆しています。
問6	答え 1 銅矛	銅矛は、九州地方で出土することが多い青銅製の武器型祭器です。これらは実際に戦いで使う武器というよりは、葬儀や祭りの場で神を祀ったり、亡くなった首長の権力を誇示したりするための道具として副葬されました。
問7	答え 3 光武帝	当時の日本の「奴国」の王が、後漢の都に使者を派遣しました。それに対して、皇帝である光武帝は、親交のしるしとして「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けました。これは当時の日本が中国の王朝から「倭の国の一つ」として公的に認められた歴史的な出来事です。
問8	答え 3 祭り	銅鐸は、このような祭りの場で、神聖な音を出したり、掲げられたりすることで、人々を統率し豊作を祈るために使われました。祭りは単なるレクリエーションではなく、集落の人々を結びつける政治・宗教的なイベントでした。
問9	答え 4 ネズミ返し	高床倉庫は、湿気やネズミの被害を防ぐために床を高くした建築物です。柱の途中に板状の出っ張り（ネズミ返し）を取り付けることで、地面から登ってくるネズミがそれ以上進めないように工夫されていました。
問10	答え 4 金属器	金属器には主に銅製品（青銅器）と鉄製品がありました。青銅器は、銅剣や銅矛、銅鐸のように主に祭りや儀式のための道具として用いられ、集団の結束を高める役割を果たしました。一方で鉄製品は、農具や武器として実用的な側面が強く、当時の生産性向上や戦闘の激化に寄与しました。
問11	答え 4 鉄器	鉄は青銅よりも硬く丈夫であるため、刃先として農具（鋤・鍬）や武器（剣・矛・鏃）などに加工されました。鉄製農具の普及により、土地の開墾や灌漑施設の整備が効率的に行われるようになり、収穫量が大幅に増大しました。
問12	答え 1 祭祀	青銅器である銅剣や銅矛は、鋭い刃を持ちながらも実用には適さない繊細なものも多く、主に祭祀の場で神聖な道具として使われました。これらを所有したり儀式を主導したりすることが、指導者の権威を高めることにつながりました。
問13	答え 4 志賀島	後漢の光武帝から授けられたとされる「漢委奴国王」の金印は、江戸時代、福岡県の志賀島で農作業中に偶然発見されたと伝えられています。この発見により、古事記などの文献に頼るだけでなく、考古学的な資料によって古代の外交関係が証明されることとなりました。
問14	答え 4 志賀島	福岡県の志賀島で、農作業の最中に石の間から金印が発見されたと伝えられています。金印には「漢委奴国王」という文字が刻まれており、これがかつて中国の皇帝から授けられたものと結びつけられました。
問15	答え 3 銅鐸	銅鐸は青銅製の釣鐘状の道具で、当初は小型でしたが、次第に大型化しました。表面には稲作の様子や動物、自然などの絵が描かれることもあり、当時の人々の信仰心や芸術性を伝えています。
問16	答え 3 後漢書	『後漢書』は、後漢時代の出来事をまとめた中国の歴史書です。この中にある「東夷伝」という章には、当時の日本（倭）の様子が記されており、57年に奴国の王の使いが後漢へ向かい、光武帝から金印を授けられたという記述が含まれています。

問1 邪馬台国の卑弥呼が魏の皇帝から贈り物を受けた様子など、当時の日本の様子が詳しく記されている中国の歴史書を何という？

1. 日本書紀 2. 魏志倭人伝 3. 風土記 4. 古事記

問2 弥生土器の名称の由来となった、最初に見つかった場所は現在の何という地名？

1. 飛鳥 2. 本郷 3. 向ヶ岡 4. 弥生町

問3 銅剣や銅矛が多く出土しており、銅鐸の主な出土地帯とは異なる特徴を持つ地域はどこ？

1. 九州地方 2. 近畿地方 3. 東北地方 4. 中国地方

問4 「漢委奴国王」と刻まれた金印が発見された、福岡県にある場所はどこ？

1. 対馬 2. 壱岐 3. 種子島 4. 志賀島

問5 弥生時代において、祭礼や儀式を行うために用いられた道具のうち、銅鐸や銅鏡などを総称して何という？

1. 土器 2. 石器 3. 鉄器 4. 青銅器

問6 九州地方で主に副葬品として使われていた、銅剣などとともに見つかる青銅の武器を何という？

1. 銅矛 2. 銅鐸 3. 銅鏡 4. 銅剣

問7 銅鐸が主な役割として使われた、豊作を祈るなどの行事を何という？

1. 狩り 2. 戦い 3. 祭り 4. 交易

問8 『後漢書』東夷伝などの歴史書において、弥生時代の日本列島に多数存在していたとされる政治的なまとまりを何という？

1. 倭国 2. 邪馬台国 3. 小国 4. 奴国

問9 57年に奴国の使者が訪れ、金印を授けたとされる後漢の皇帝を何という？

1. 桓靈 2. 光武帝 3. 文帝 4. 献帝

問10 1世紀に日本の奴国の王から使者が送られた際、返礼として金印を授けた後漢の皇帝は誰？

1. 武帝 2. 始皇帝 3. 光武帝 4. 玄宗

問11 奴国からの使節の来訪や金印の授与についての記述がある、中国の歴史書を何という？

1. 古事記 2. 魏志倭人伝 3. 後漢書 4. 日本書紀

問12 佐賀県にあり、周囲に濠（ほり）を巡らせた弥生時代の集落跡として知られる代表的な遺跡を何という？

1. 三内丸山遺跡 2. 大森貝塚 3. 登呂遺跡 4. 吉野ヶ里遺跡

問13 古代中国の記録などを通じて、当時の日本（倭）の状況を知ることができる資料のうち、出来事や制度を記録した書物を何という？

1. 法典 2. 地理書 3. 歴史書 4. 随筆

問14 弥生時代に大陸から伝わり、銅剣や銅矛などの作成に用いられた技術のことを何という？

1. 木器 2. 石器 3. 土器 4. 金属器

問15 弥生時代、奴国の使者が金印を授かった、当時の中国の王朝を何という？

1. 隋 2. 魏 3. 前漢 4. 後漢

答え合わせ・解説

問1	答え 2 魏志倭人伝	魏の歴史をまとめた『魏志』のうち、東夷伝という章に倭人に関する記述があり、一般に『魏志倭人伝』と呼ばれます。当時の日本の社会情勢、邪馬台国の卑弥呼の様子、生活習慣などが記録されています。
問2	答え 4 弥生町	1884年、東京都文京区の弥生町で特徴的な土器が発見されました。縄文土器とは異なる、薄手で赤褐色をしたこの土器は、発見地の名前をとって「弥生土器」と名付けられました。これが弥生時代という名称の直接の由来となっています。
問3	答え 2 近畿地方	青銅器の中でも、銅剣・銅矛の文化圏と、銅鐸の文化圏は微妙に異なり、特に関西地方を中心に多くの出土が見られます。これは、当時のクニの間で文化的な交流や、あるいは対抗意識が存在していたことを示唆しています。
問4	答え 4 志賀島	後漢の光武帝から授けられたとされる「漢委奴国王」の金印は、江戸時代、福岡県の志賀島で農作業中に偶然発見されたと伝えられています。この発見により、古事記などの文献に頼るだけでなく、考古学的な資料によって古代の外交関係が証明されることとなりました。
問5	答え 4 青銅器	青銅器は主に銅鐸や銅鏡、銅剣などに鑄造され、それらが高い装飾性を持っていたことから、主に集落の祭礼や儀式、または権力者の威信を示すための道具として使われました。実用的な強度を持つ鉄器とは異なり、精神的な価値や共同体の結束を高める象徴としての役割が強かったといえます。
問6	答え 1 銅矛	銅矛は、九州地方で出土することが多い青銅製の武器型祭器です。これらは実際に戦いで使う武器というよりは、葬儀や祭礼の場で神を祀ったり、亡くなった首長の権力を誇示したりするための道具として副葬されました。
問7	答え 3 祭り	銅鐸は、このような祭りの場で、神聖な音を出したり、掲げられたりすることで、人々を統率し豊作を祈るために使われました。祭りは単なるレクリエーションではなく、集落の人々を結びつける政治・宗教的なイベントでした。
問8	答え 3 小国	当時の日本は「百余りの小国」に分かれていたと『後漢書』などに記されています。これらの小国は、豊かな水田地帯を支配する有力者（首長）を中心に組織され、ときには他の集落や小国と水や土地をめぐる激しく争いました。
問9	答え 2 光武帝	光武帝は、57年に九州の奴国から訪れた使者に対し、朝貢の返礼として金印を授けました。これは当時の中国が、周辺の地域の小国を支配下（冊封体制）に置こうとした外交政策の一環でした。
問10	答え 3 光武帝	当時の日本の「奴国」の王が、後漢の都に使者を派遣しました。それに対して、皇帝である光武帝は、親交のしるしとして「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けました。これは当時の日本が中国の王朝から「倭の国の一つ」として公的に認められた歴史的な出来事です。
問11	答え 3 後漢書	『後漢書』は、後漢時代の出来事をまとめた中国の歴史書です。この中にある「東夷伝」という章には、当時の日本（倭）の様子が記されており、57年に奴国の王の使いが後漢へ向かい、光武帝から金印を授けられたという記述が含まれています。
問12	答え 4 吉野ヶ里遺跡	吉野ヶ里遺跡は、周囲に二重の環濠と柵をめぐらせた巨大な集落跡です。内部には多数の高床倉庫や竪穴住居、祭祀場などが復元されており、弥生時代の社会構造や生活の様子を知る上で非常に重要な遺跡です。
問13	答え 3 歴史書	『後漢書』や『魏志倭人伝（三国志）』などが代表的な歴史書です。これらの書物には、日本（倭）の地理や、百余りの小国が乱立していた様子、金印の授与、卑弥呼が統治した邪馬台国の様子などが詳細に記述されています。
問14	答え 4 金属器	金属器には主に銅製品（青銅器）と鉄製品がありました。青銅器は、銅剣や銅矛、銅鐸のように主に祭りや儀式のための道具として用いられ、集団の結束を高める役割を果たしました。一方で鉄製品は、農具や武器として実用的な側面が強く、当時の生産性向上や戦闘の激化に寄与しました。
問15	答え 4 後漢	57年、九州の奴国の使者が中国の王朝である後漢の皇帝を訪れ、朝貢を行いました。当時の皇帝である光武帝は、その使いに対して「漢委奴国王」と刻まれた金印を贈りました。